

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
幅広い世代に人気の「暮らし」のまち 災害リスクが比較的低く、公園や歩道も整備され、子育て・働く世代の移住先として選ばれています。間々田紐（ひも）や農業などの伝統工芸・技術を学ぶイベントが開催され、幅広い世代に人気の地区です。間々田駅周辺には生活に必要な施設が充実し、バスや駐車場整備も進んだことで利便性が向上し、休日には市内各地に出かける人の姿が見られます。					
歴史あるまち並みと新しいまちなか 間々田駅東西部は古民家の改装で移住者が増え、多様な店舗やこども食堂が開かれ、学生や親子連れでにぎわい、国道4号沿いの空き家・空き地は駐車場を備えた飲食店に改修され、県外訪問者も楽しんでいきます。「新小山市立博物館・間々田のじゃがまいた伝承館」が文化拠点となり、体験ツアーで魅力を発信しています。	・こども食堂を身近なところで開きたい（自分で作った野菜を提供したい） ・飲食店を出して子ども食堂をやりたい ・空き家の撲滅	・こども食堂でもいいが、独居老人を対象とする老人食堂をやっても面白いと思う ・空き地や空き家を活用した居場所づくり、常設サロンの運営 ・空き家や田畑の使用していないところ活用 ・間々田にまちの駅をつくる、地域拠点が必要であるため、駅から八幡宮に至る経路で人が集まるものをつくる	・もみじ山では新規分譲地が多い一方空き家も多い ・狭隘道路や行き止まりも多く道路事情の改善を市に要望しても難しい ・歴史の掘り起こしを行政としたい ・間々田駅周辺の活性化⇒商店街を形成し盛り上げたい ・子どもたちが安心、安全に集まれる場所づくり ・放課後の学校開放（一部の教室のみでもいい） ・4号沿いの再開発にぎわいの再生 ・自治会で作成している空き家マップを小山市と共有してリスク低減を図る	・おやまの歴史の道の整備（須賀神社から安房神社など）、鎌倉街道を整備して繋ぐ、小山～野木まで ・小山用水の用水路にふた掛けがされていない、他地区の自治会と連携して整備を進めたい ・他の地区でやっていること（子ども食堂）のやり方を学ぶ ・思川の乙女宿と小山宿を結ぶ舟を走らせる（江戸時代の風情を楽しむ） ・間々田宿という歴史を活かし宿場町として観光スポットを形成したい	
人の営みと自然が織りなすゆとりある空間 美しが丘周辺は落ち着いた住宅街と緑が点在し、自然と調和した空間が広がり、東黒田、西黒田、南飯田、思川左岸では、こどもたちの農業体験の場と地域で管理する平地林が美しい自然風景を生んでいます。駅や市街地へのアクセスが良く、半農半Xや趣味農園など多様なライフスタイルが実現でき、地酒などの地場産品も親しまれています。	・間々田駅前を整備したい、食の安全安心、間々田で「トマト園」にしたい ・花のロードづくり、街路樹の管理が難しいので、自宅の庭先で花を植えて街に彩を ・近くのゴミ置き場をきれいにしたい（清掃したい）		・農作業を地域の人たちとやる（行政が音頭をとってくれるとありがたい） ・お年寄りが移動しやすい交通や道路 ・子どもたちの教養と教育。年配の方々と今日用と今日行く場所としておーバスのルートを見直す ・桜並木の維持⇒川沿いや道路沿いを維持していきたい ・間々田小学校通学路の安全確保 ・浅草通りを盛り上げてほしい ・おーバスの夜間運行小山駅から間々田駅、小山駅から羽川など	・大谷南部の買い物圏として交通をつなぐ	

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
地区がつながり、人が行き交う間々田 粟宮や千駄塚では新小山市民病院や市立体育館を核に医療・スポーツ・商業の拠点が形成されています。区画整理で住宅・商業施設が増え、安房神社と一体の公園では自然体験イベントが開催されています。乙女地区は野木町とつながり、乙女大橋の架け替えで思川西部との交流が活発化しています。		・育成会の活性化、地区を超えたイベント開催	・真岡市「モナカ」のような複合交流拠点ができるといい ・間々田の商業を発展させたい ・学校を活用させてほしい ・乙女公園でイベント	・囲碁や将棋の大会を他地区とやってみたい ・学校が遠いため他の学校に行けるように連携したい。	
伝統文化が育む地元とのつながり “間々田のじゃがまいた”は、7 町内が伝統を継承し、性別・国籍を問わず参加できる地域も増え一層発展しています。間々田八幡宮や安房神社などで奉納相撲や太々神楽が行われ、地域全体でこどもの参加を促し、地域への愛着が育まれています。	・美しが丘公園の祭りを盛り上げたい ・みこし・祭りに参加したい	・地域のお祭りの復活⇒コロナで減少傾向にあるお祭りを何とか復活したい。⇒史跡めぐり ・おまつり等のイベントで住民の一体化を進めたい ・下町育成会じゃまつり復活		・伝統行事の継承、やる意味を認識してもらい、次の世代につなげる ・じゃ祭りのアピール隊を結成し、間々田の良さをアピール ・じゃ祭りの参加者を他地区からも募集する	
地域を結ぶ人と人との関わり 幼少期から地域の文化に親しんだ住民が自治に参画し、各自治会の活動を共有することで地域間の理解や連携が深まっています。また、電子上での情報共有により地域の状況を把握しやすく、多言語対応で外国人住民も取り残されず、災害時は迅速な情報伝達が可能になっています。	・自治会の活動、2030 年問題を共有して取り組み（以前はMDG s）2045 年の A I 問題が来る ・上記に関する A I に係る活動を取り組みたい、人間が住みづらい環境において何らかの対策を ・会社で培った能力や技術を自治会に還元する！ ・昔懐かしの映画会やカラオケなど気軽なイベントをサロンでやってみたい ・気軽に集まれる場所の活用 ・空き家や土地の活用 ・公民館に集まりたい。⇒CS 関係で集まり、良い事例の情報共有などでできれば ・昔話を聞きたい ・地域の人とをもって気軽に言い合える関係性 ・企業や個人でスポンサーになったり、自らでボランティアを運営する ・個人の活動が地域の活性化につながる こと ・自治会の負担低減のため、不要と思われる過去の継続をやめる	・自治会ごとに催し物をやっている（以前は東口祭りもあった）が、防災訓練とかも近隣自治会でやりたい ・平和は毎月 1 回自治会で勉強会をやっている、（平和には 3 人の神がいる） ・昔の人は少ないが、新しい人も含め、じゃがまいた発祥の地（平和）として大きなお祭りや防災訓練もやった ・育成会や小学校のボランティアもやっている、自治会内で完結することができる ・子どもからお年寄りまで一体となって自治会活動 ・みなで協働して新しいまちづくりをしたい（間々田がおいてけぼりにならないよう） ・住みよい間々田協議会もちょっとした事業しかやっていないため、協議会が先進的な取り組みを ・協議会の取組みに自治会も巻き込んでもらってまちづくりを進める ・自治会も若い世代の友人とともにまちづくりを進めることが重要 ・スクールゾーンを地域の方と見守り隊	・制度に関して地域の人とをもってフランクに話せる環境が必要 制度としては、新しい取り組みに関するノウハウが伝わっていない、その辺を教えてくれる人の勉強会実施	・自治会間々田支部内で問題事や懸念事の共有が必要	

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
	・高齢者、子どもたちが気軽に集まれる場づくり ・自治会の加入促進 ・自治会は参加し続けたい ・地域（小山）の PR ・地域の年配の方と若い世代の橋渡し ・間々田の価値を再確認できる取組み ・自治会の活動を復活させたい ・自治会をやめない ・PTA がんばる	（地域見守りにもつながる、散歩がてら健康にもつながる） ・いまの間々田地区で何が不足かと考えるとネットワークインフラの不足、紙媒体ではない周知手段の構築 ・ボランティアはやってあたりまえではなく、その活動を地域が認めること、それで地域が活性化する ・何かやってみたい人たちの登録制度（人材バンク）やってみたい人たちをつなげて拡大していき、企業からもサポートしてもらう ・すべて1人でやってしまうのではなく、できることでもいろいろな人に手伝ってもらってどんどん巻き込んでいく ・高齢者のゴミ出し等の支え合いの輪（グループ）づくり ・高齢者が今住んでいる地域、住まいで人生を過ごせる支え合いの地域づくり ・乙女下町地区の芋煮会を復活させたい ・間々田地区の体育祭 ・年代、性別、地域関係なく交流できるものを開催したい			
そのほか	・防災キャンプ⇒専門家の講話を聞きながらみんなで集まる場を作りたい。 ・地域を知らないに興味関心がもてない。地域活動＝ジブンゴトになるには地域をまず知ること ・あいさつ	・地域の防災⇒美しが丘の公園(3カ所)に井戸を掘って災害時に利用できるように⇒美しが丘内の交差点部にカメラを設置する。	・ゴミ拾いをポイント化美化すれば犯罪も減るし、美化税制減になる分ポイント化する。 ・消防団が縮小、市としても縮小方向を解消したい ・中学生に未来を考える授業 ・トラックヤードのパネル ・高齢者向けのケーブル TV を光ケーブルにしてインターネットに接続したい ・学び方を選べる仕組みを構築 ・子どもたちの安全対策と農家を守るためのイノシシ対策 ・大学を誘致することが可能ならしてほしい	・ある意味小山からの独立	

地域全体で子育てを支える 遊具が充実した公園が増え、子育てしやすい環境づくりが進み、マルベリー館では多世代交流が活発で、こどもに教え、伝える活動や子育てサロンが開かれるなど、地域のつながりが深まっています。	・上の世代が変わっていくこと（子育て世代の確保のため） ・子ども達の学習能力の向上	・子どもの将来を考え、ママ友だけの集合体ではなく育成会を活用する ・子供たちに地域の行事へ参加してもらいたい ・高齢者もかかわれる仕組みをつくり、地域で子供たちを育てる方向に進みたい	・子ども政策の充実（流山市） ・子育て世代の確保		
新たな交流の創出 国道4号沿いにチャレンジショップやカフェなどが並び、若者が集まる新たなにぎわいが形成されています。大沼周辺では農産物直売所やクラインガルテンなどが整備され、地域内外の交流が活発になっています。		・大沼に花を植え、ひたち海浜公園のようにしたい ・高齢者と子どものかかわりをつくる。特に大沼は、高齢者が安心して憩え、子供たちの広場となるようにしたい	・移住の補助金（境町） ・工業団地が多いため、その近くに社宅を作って人を呼び込みたい ・大沼周辺を憩いの場にしたい ・大沼周辺を子供たちが過ごせる場にしたい ・大沼ではアオコが発生し水の透明度が著しく下がった。浚渫が必要ではないか。浚った汚泥は肥料にできないか。 ・大沼の池干しは必要だが、冬季に行くと冬鳥（渡り鳥）への影響が大きい。秋の雨季に防災を兼ねて水を抜いてはどうかと思うが、水利組合に拒否された。利水、防災、環境保全を合わせて満足する池干しができないか ・大沼は周辺と一体化して整備できればと思うが、農振地域で調整が困難とのこと。土地利用のあり方を見直せたらと思う	・大沼周辺で都会の子供に来てもらい、農業体験をとおして交流したい	
そのほか	・仕事とは関係のないことを始めたい。自然食品など	・人口減少は避けられない。行政サービスの低下は承知の上で新技術（IT等）も活用しつつ地域で高齢者を支えたい	・小山市のPRをもっとする（NHK 栃木630で鹿沼は多い） ・人口問題について行政とともに考えたい ・桑中がもっと魅力のある学校になってほしい ・共創の前に、第二に市南部に比べて北部は病院などの公共施設が少ない。市はバランスをとって欲しい	他の自治体と連携（先進事例の取入れ） ・情報共有をしたい ・防災対応。年1回でも交互に実施する。 ・桑地区には飯塚のように地形的に水害に遭いやすいエリアも含まれる。こうしたエリアの人びとが、災害時により安全な位置にある避難所を利用できるよう、桑地区内の各エリア間や他地区との間での連携を図れるとよい	